

# おお大勝利

平成 22 年度山東サッカー部報第 13 号 (7 月 21 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

## Yリーグ第8節 危うい大勝

7 月 19 日 (月) 海の日、Yリーグ第 8 節が天童人工芝にて行われ、山東は鶴岡東との対戦。前回の対戦は 7 月 3 日 (土) の坊平ラウンドですので、「やったばかり」。前回は新人チーム初勝利をゲットいたしました。今回はどうなるかわからない。今の山東の力は、顧問から見てもまさに「読めない」といったところ。良いコンビネーションを見せるかと思つたら、途端に悪い流れにはまったり。そして流れをコントロールできない。**何とも不安定ですが、よくよく過去を振り返れば、新人チーム発足からしばらくは、毎年そんなところ。**3 年松永が 7 月一杯までチームにおりますが松永抜きでチーム力を考えた場合、昨年よりも現時点での力は劣るでしょうが、今後どう化けるかは顧問の楽しみでもあります。幸いなことに、驚くほど伸びる選手が毎年いますので。

試合開始は 14:00。べにばなスポーツパーク (山形県総合運動広場) の南側駐車場はプールに向かう家族客の車でごった返している。プール日和のうだるような暑さの中、試合は開始。鶴東はトップ (FW) とバック (DF) に高さのある選手を配置し、そして左右のウイング (サイドハーフ) が山東 DF に高い位置でプレスを掛けてくる。山東 DF のボール回しを狙う作戦+プレス逃れの山東のロングボールを跳ね返す作戦 (に見えました)。プレスを前へ前へと掛けてくる (人数を前に配置してくる) ということは、普通に考えて DF 裏のスペース (DF ライン付近) が空いてくるということであり、ロングボールのチャンスであります<sup>1</sup>が、ロングキックの精度に問題があり敵がハイボールに強そうな現状でそれを狙うのは率が悪い。逆に、前線からハイプレスを掛けることによって必然的に起こる間延び (FW-MF-DF 間の間隔が空いてしまい連動性のあるプレスにならないこと) を突くために、ギャップ (敵と敵の隙間) に入り込んでショートパスで崩した方が効果的だったりします。山東は、前節、ケンとメッシのボランチコンビによるゲームコントロールがまずまず機能したのですが、その良いイメージが功を奏してか、しばしばボランチを経由した丁寧なビルドアップに成功。優勢に試合を進める。

<sup>1</sup> 近年は、小学校・中学校での育成の成果か、「長いボールを蹴るサッカー」というものを判断なしに、拒否してしまう選手が多いように思われます。FCバルセロナ型のポジションサッカー (ボールを保有し続けることにこだわったサッカー カウンターサッカーの対立概念) 全盛の時代を表しています。しかし、FCバルセロナもしばしばFWを走らせる「一発」の攻撃を見せるように、長いボールが最も相手の嫌がる率の高い攻撃と判断できる場合には、躊躇なくそれを選択するべきと思われます。ポイントはそこに判断があるか否かであり、判断なしにロングボールを否定するのは、判断なく (無暗矢鱈に) ボールを蹴ってばかりいるのと同じことです。

しかし安定感あるボール回しからは程遠く、ぽろぽろとミスを起こし、ボールの流れを自ら寸断させてしまう。ボールを止める・運ぶ・蹴るといった基本技術の面でレベルが低いことを痛感させられる<sup>2</sup>。ただ鶴東は前日に天皇杯3回戦で日大山形と対戦したばかり<sup>3</sup>。疲れからか、中盤より低いミスの許されない位置でミスが目立つ。そこを突いてドリブルで仕掛けた左サイドハーフ嶋貫が敵を左にかわして利き足（左足）でのシュート。シュートをブロックしようと足を伸ばした敵の股間を抜けるシュートは、GKの意表を突いたか、さほど威力はなかったものの、ゴール右隅に決まり先制。嶋貫の得点は久しぶり。本人もよほどうれしかった模様で、**ガッツポーズを見せながらドリブルよりも速いスピードで帰陣**。その後、メッシの狙いすましたロングボールを受けて中央を抜け出した多田が冷静にGKとの1対1を決め、追加点。2-0で前半終了。

後半はボランチへのボールを狙われ、低い位置（味方ゴールに近い位置）でボールを奪われること複数回。またDFのクリアが短かったりDFからMFへのパスの精度を欠いたりすることが多いし、GKからの配球も「ただ蹴る」ことが多くてパスになっておらず、ボールを保持（possess）できない。鶴東にボールを回される時間が増える。山東ゴールから遠いところでのパス回しが多いので安心して見ていられるが、ゴール前に入る縦のボールへの寄せの厳しさを欠くシーンも見られ、決定的シーンを数回作られる<sup>4</sup>。しかし、いずれも鶴東のフィニッシュは精度を欠き、無失点が続く。対して山東の攻撃では、後半から丁寧にビルドアップしようとしてきた鶴東のプレーのミスを突き、高い位置で（敵ゴールに近い位置で）ボールをしばしば奪い、ショートカウンターを繰り返す。その形から、松永の得点と嶋貫の右足による得点を生む。また何点目だったか忘れてましたが、メッシがゴール中央25m付近からFK一閃。右足インフロントで強く蹴られたボールは若干左にカーブしながらゴール左上隅に決まる**ビューティフルゴール！！メッシ、名前に負けず劣らずやるね**。そういえば最近、彼は一生懸命？FKの練習していました。**練習の成果が出たシーンを見ることができるのは、顧問としてこの上もない喜びです**。

鶴東の攻撃はCDF博愛・凌、右サイドバックで初先発した仙道や、4歳の可愛い妹の応援を受けて発奮した左サイドバック大築らが体を張り、結局零封。**5-0というスコアだけ見たら大勝という結果で試合終了。勝ってうれしくないはずはありませんが、2、3点入れられてもおかしくない試合でした**。公式戦でまず欲しいのは結果ですが、内容を追い求めないと今日の結果を明日の結果をつなげることができず、長続きはしないでしょう。良い内容をも求めつつ次もがんばりますので、応援よろしくをお願いします。

**7月31日（土） Y1第9節 東海大山形戦 10:00～ @天童第二**

**3年松永の最終戦です**

2 現在ボールコントロール以上に問題があると思っているのが、ボールがない状況（off the ballの状況）での動きの質の低さです。さらに加えるとボディランゲージ等自分の意図をパサー（パスする選手）に知らせる術の欠如です。ボール保持者のon the ballのパスミスを減らすために、パスの受け手のできることが、まだまだあるように思います。

3 スコアは3-1で日大の勝ち。

4 何分くらいのプレーだったか忘れてましたが、ゴール前でつながれ、鶴東の選手が左足で真っすぐ飛ばせばすぐゴール！というシーンを作られました。しかし左足シュートは明後日の方向に飛んでいき事なきを得ましたが、完全な失点シーンでした。やはり左足（利き足の逆足）を鍛えておかないといけない、と感じたシーンでもありました。ボールは自分の右側に転がってくるとは限りませんからね。